

稲ホールクロップサイレージ（WCS）を畜産農家で活用！

中能登農林総合事務所

県内では、水田の有効利用と畜産農家の飼料自給率向上のため、稲のホールクロップサイレージ（以下、稲WCS）の利用が進められていますが、当管内においては、一部の畜産農家で飼料としての利用はあるものの、大規模な生産は進んでいない状況でした。

平成29年に志賀町で新たに肉用牛繁殖経営を行う合同会社能登牛繁殖センター（以下、繁殖センター）が誕生し、現在では36頭あまりの繁殖牛を飼育しています。飼料については、その大部分を輸入粗飼料に依存しており、経営の安定化に向け、飼料コストの低減が求められていました。

そこで、当事務所では、平成30年度から水田を活用した安価な粗飼料を確保するため、近隣の耕種農家やJA志賀と協力し、繁殖センターで利用する稲WCSの生産を推進してきました。本年度は、約1ヘクタールで作付し、安定生産のための肥培管理や適正農薬の指導のほか、県内コントラクターの協力を得て、大型の専用収穫調製機械を使った収穫のデモンストレーションを行ったところ、耕種農家からは「思っていたよりも栽培が楽だ」など感触がよく、今後の規模拡大に向けて意欲が高まっています。

今後、当事務所では、調整した稲WCSの栄養成分分析を実施し、繁殖牛への給与量などを指導していくこととしています。また、稲WCSの収穫調製機械の導入や繁殖センターのたい肥を水田へ還元するなど、耕種農家と畜産農家および関係機関が連携し、地域が主体的に稲WCSをきっかけとした地域循環型の耕畜連携が円滑に取り組んでいくよう支援を行っていきます。



稲WCSの収穫作業



稲WCSの運搬作業

問い合わせ：農業振興部（0767-52-5522）